

都市再生整備計画(第2回変更)

てん り え き し ゅ う へ ん ち く
天理駅周辺地区

な ら け ん てん り し
奈良県 天理市

平成28年10月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	奈良県	市町村名	天理市	地区名	天理駅周辺地区	面積	22.9ha
計画期間	平成27年度～平成29年度			交付期間	平成27年度～平成29年度		

<p>目標</p> <p>天理駅周辺の活力とにぎわいの創出のため、魅力ある公共空間の整備と活用を図る。</p> <p>目標1: にぎわいのある駅前空間の創出</p> <p>目標2: 産業振興へのつながり創出</p> <p>目標3: 魅力ある文化発信拠点の創出</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>天理市の市街地は鉄道駅を中心に形成され、その周りには田園風景の中に集落が点在している。山麓には「山の辺の道」や「石上神宮」など歴史的資産も多く、天理教施設と併せて宗教文化都市としての特長と、都市の性格としては、市内で働く人が多く、市外からの就業・通学者を含めた昼間の人口が多い核型都市の性格も持ち合わせている。</p> <p>その中で天理駅周辺地区は本市の市街地中心部に位置し、天理駅はJR桜井線と近鉄天理線が接し、バスの発着点で本市の玄関口であるとともに、乗客数1万人弱の交通結節点となっている。</p> <p>天理駅は、昭和42年に国鉄と近鉄の総合駅舎化に併せて整備された約18,400㎡の駅前広場を有しており、駅前広場は、老朽化と放置自転車対策等により、平成15年に地下駐輪場を設置し、再整備を実施した。しかし、本市の人口減少に伴い乗客数も若干の減少傾向にあり、当地区においても朝夕の通勤通学時間帯や天理教大祭、月次祭時以外は閑散とした活気のない状況であり、駅前広場の再整備を行ったものの、集客力が欠落し、市玄関口としての魅力発信や観光案内等の拠点機能が伴っていない空間となっている。</p> <p>また、地域住民のニーズ等を把握するためにを行っている市民アンケートでも、憩いの場の整備、魅力ある観光の振興、商店街の活性化等は常に不満率が満足率を上回り、重要度が上位に位置づけられており、市民からの強い要望となっている。</p> <p>現在、天理駅周辺地区の活性化に向けて、地域住民や関係団体の代表等で構成される街づくり協議会を立上げ、まちづくりについて検討を行い、天理駅前広場及びその周辺を活気ある地区とし、市内のみならず市外からも集客を見込める、にぎわいの拠点づくりを計画している。</p>
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天理駅と天理本通り(アーケード商店街)を結ぶ駅前広場は、にぎわい憩う魅力ある空間の創出が求められている。 ・天理駅周辺地区を含む周辺の商業地域へのつながりがないことが潜在的な課題となっている。 ・市の玄関口にもかかわらず市外からの来訪者を迎える観光や物産等の情報発信力が欠如している。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>平成25年4月に10年後の将来像を見据える都市計画マスタープランが策定され、都市マスでは、これまでの市街地の拡大を前提とした「整備」「開発」を主体とした計画から集約型の都市形成を目指した「維持・保全」「改善(長寿命化)」を主体とした計画に転換することが必要であるとして、天理駅周辺の商業地を「中心拠点」と位置づけ、中心拠点は「交流商業軸:天理本通り」と連携して、都市的なサービス機能が集積し、利便性が高く、魅力とにぎわいのある商業空間や行政をはじめとした各種サービス空間を形成することを目指すとともに、生活文化の情報発信・交流の場を確保するほか、回遊性の高い商業空間を形成し、魅力があり、人々が日常的に多目的に訪れる中心商業地づくりや市民及び来訪者の交流の場を確保するとしている。</p> <p>人口減少、空き店舗増加など、日常の活気や魅力が低迷している状況下の天理駅周辺地区において、都市マスに基づき、未利用施設の活用により、複合的な都市サービス機能の向上を図ることを目指している。</p> <p>当地区の駅前空間が、人が集いにぎわいのあるものとして活性化することで、市民の生活満足度を向上させ、周遊観光の拠点として、本市の産業振興へ波及するとともに、魅力ある文化発信拠点としての相乗効果を期待している。</p>

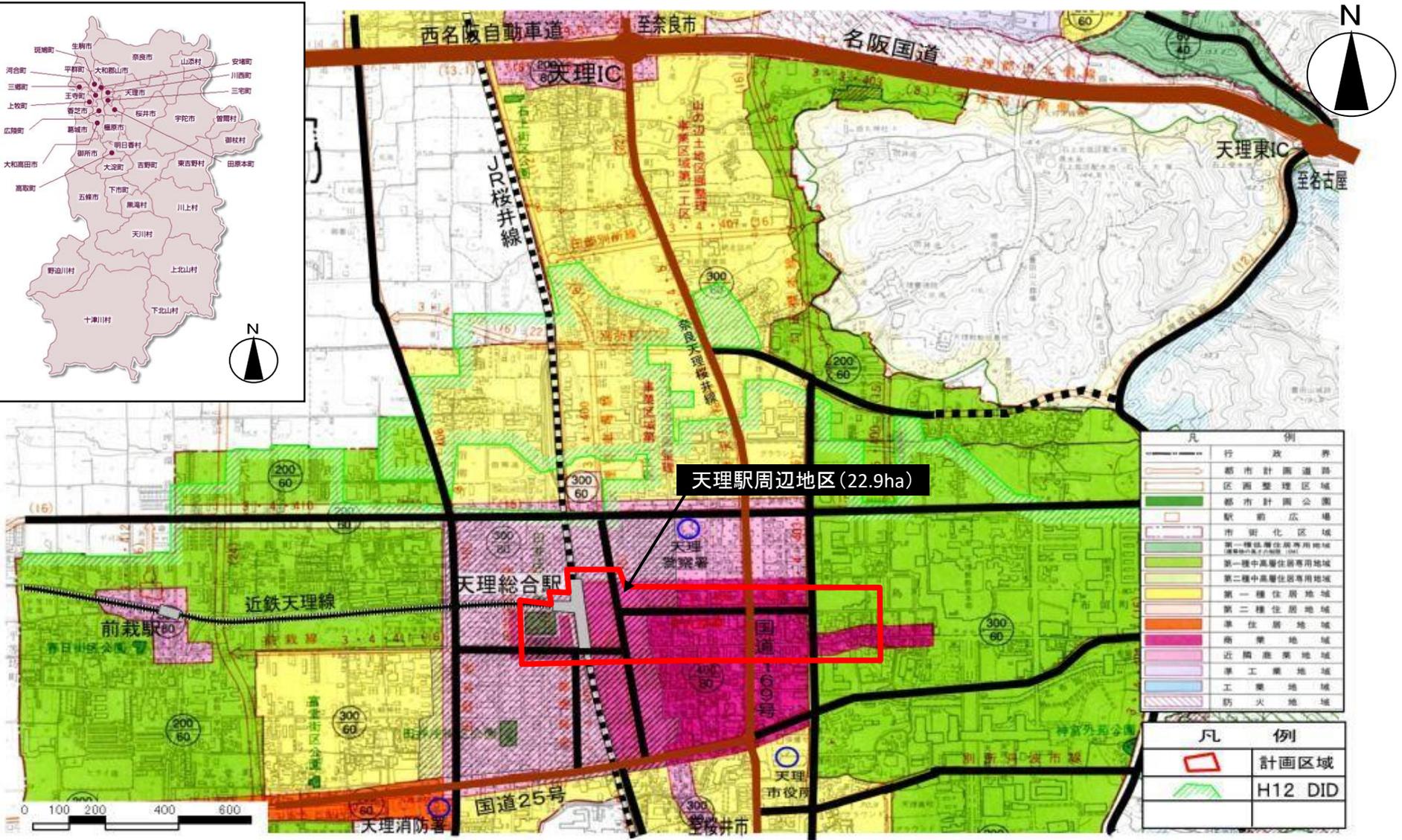
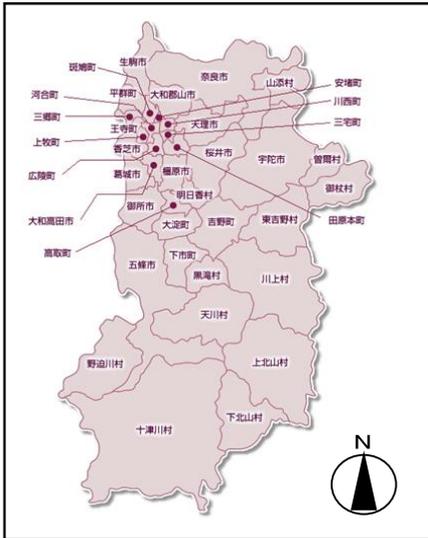
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	基準年度	目標年度
商店街の満足度	%	「商店街の活性化など商業の振興」満足度(市政アンケート)	当地区のにぎわい状況を商店街の満足度の状況により評価する。	6.60%	10.00%	H25年度	H29年度
観光施設の利用者数	人	観光物産センターの利用者数	観光案内施設の整備前後利用者数を測定し、産業情報発信の状況の評価する。	16,000人	32,000人	H25年度	H29年度
イベント広場の利用回数	回	イベント広場の年間利用回数	イベント広場の利用回数により、文化発信の状況の評価する。	34回	50回	H25年度	H29年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 にごわいのある駅前空間を創出する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天理駅前広場に公園スペースを創出し、子育て世代から高齢者まで多世代の市民が集い、交流し、市外からの来訪者に本市の魅力を発信することができる軽飲食等の提供を伴う施設を整備する。また、天理駅を拠点とした自転車を利用した観光周遊ができるレンタサイクル事業を展開する。 ・中大路線に四季折々の草花を植栽し、市玄関口のメインストリートとして魅力ある空間を演出する。 ・天理駅西側に近接する田井庄池公園内の一部を利用して蒸気機関車を展示しているが、公衆便所や植栽に隠れ、非常に目立たず閑散とした状態であるため、展示場周辺等を再整備し、魅力ある空間を創出する。 	<p>提案事業 【地域創造支援事業】サービス施設(カフェ、レンタサイクル)</p> <p>【まちづくり活動推進事業】花いっぱい運動</p> <p>基幹事業 【公園事業】田井庄池公園</p>
<p>整備方針2 産業振興へのつながりを創出する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の観光案内所(ナビ天理)を天理駅構内の空きスペースの利用と併せて拡充し、観光や商業等の情報発信拠点としての機能を有した、魅力ある空間を整備する。 ・地元特産品のPR、地産地消を推進するため、上記の観光交流施設と併設して物産品販売を設置し、産業の情報発信拠点としての整備を行う。 ・観光交流施設等や駅前周辺地区で、観光や地場作物の地産地消、特産品のPRを行うとともに、パンフレット等情報発信ツールを制作し、イベントの案内など産業振興につながる活動を展開する。 ・駅前広場からの人の流れを生み出すために、本通り商店街アーケードのファサードを駅前広場と連動させたデザインに再整備する。 	<p>提案事業 【地域創造支援事業】特産品販売施設等</p> <p>【まちづくり活動推進事業】観光パンフレット・ポスター等作成</p> <p>【地域創造支援事業】商店街ファサード整備助成事業</p> <p>関連事業 空き店舗利活用事業</p>
<p>整備方針3 魅力ある文化発信拠点を創出する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天理駅前広場にあるイベントスペース、植栽、修景施設を見直すとともに、遊具、ステージ等を整備し、地区内外から人を呼び込める空間を創出する。 ・観光交流施設及びサービス施設等の設置に付帯して一般車の駐車場を整備し、イベント等の集客性に寄与するとともに、駅利用者への利便性向上を図る。 ・広場空間の利用について、市内における全国レベルの音楽活動団体を活用するなど、音楽イベントを開催し、地区内外から来訪してもらう仕組みを創出する。 ・駅利用者への利便性向上から駐車場を整備するのに伴い、支障となる現在のタクシープールを同駅前広場内に移設する。 	<p>基幹事業 【地域生活基盤施設】広場整備 【地域生活基盤施設】駐車場整備 【高質空間形成施設】緑化施設等整備</p> <p>提案事業【地域創造支援事業】バス・タクシープール整備</p> <p>関連事業 てくてくてんりウォーキングフェスタ 駅前マルシェ事業</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり構想推進事業 ・空き店舗利活用事業 ・駅前マルシェ事業 ・てくてくウォーキングフェスタ事業 ・光の祭典事業 	

都市再生整備計画の区域

天理駅周辺地区(奈良県天理市)	面積	22.9ha	区域	天理市川原城町の一部、三島町の一部、田井庄町の一部
-----------------	----	--------	----	---------------------------



天理駅周辺地区(奈良県天理市) 整備方針概要図

目 標	天理駅周辺の活力とにぎわいの創出のため、魅力ある公共空間の整備と活用を図る。	代表的な指標	商店街の満足度(%)	6.60 (H25年度)	→	10.00 (H29年度)
			観光施設の利用者数(人)	16,000 (H25年度)	→	32,000 (H29年度)
			イベント広場の利用回数(回)	34 (H25年度)	→	50 (H29年度)

